平成30年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 紀之川 中学校
校長氏名	南方 邦昭
作成日	平成31年 1月 21日

1 教育目標

学校教育目標 あなたがいてよかったと言われる人になろう
めざす生徒像
 自ら求める生徒(主体性を育む) 自ら省みる生徒(連帯性を育む) 自ら創る生徒(創造性を育む) の育成をめざす

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	○授業がよくわかる 80% ○授業改善(目標・振り返り) 95%	○学校が楽しい 95% ○いじめを許さない95%	○朝食を毎日食べる 95%	○連携回数 3回以上 ○教職員の不祥事 0
重点目標 【P】	◎生徒指導の充実 ◎基礎・基本の確かな定着 ◎主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ◎家庭学習の定着 ◎読書活動の推進	◎道徳教育・人権教育の推進 ◎いじめの未然防止・早期発見 ◎規範意識の確立・仲間作り	◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ◎危機回避能力の育成	◎家庭・地域との連携充実 ◎中学校区における幼保小との接続連携に取り組む
取組の状況 【D】	教科指導や見回り等を通じ、学習規律を何とか保っている。学習意欲を高める授業の実践と基礎基本の定着をはかるため、宿題や課題を作成し、点検するなど地道な取組を進めている。家庭学習・読書の習慣化を図るよう取組んでいる。	道徳の授業においては、担任の固定化を改善し、学年として生徒に向き合うことを考え、持ち回りで授業指導に取組んでいる。授業や学校行事、部活動等を通じ、集団づくりの中で、生徒個々の心の育成に努めている。	新体力テストの実施にあたって、年度初め基礎体力作りに取り組み、テストの受け方を事前に指導したうえで実施。保健だよりを通じ、「早寝早起き朝ごはん」の必要性を周知するとともに、その時期に見合う課題を毎月お知らせしている。	四箇郷地区・中之島地区それぞれの夏まつり、その他の地域行事に参加し連携を図っている。図書ボランティアの尽力もあり、図書室の整備が進み、生徒の利用も向上している。小学校と英語授業を通じて相互の交流を図っている。
取組の成果と課題 【C】 (評価結果)	学校全体としての学習切とは何とか保たれているものの、生徒個々の学力向上ということに関してはなかなかつなげられていない。「主体的・対話的で深い学び」のある授業の創造は少しずつではあるが、取組めるようになってきつつある。	特別の教科道徳についての指導計画を策定し来年度の準備を進めている。朝の挨拶運動を通じて、朝の挨拶等が生徒の間に定着してきているように感じている。アンケートに基づき、教育相談を実施できている。	学校に遅刻をしてくる生徒が少なくなってきた。但し、朝食を食べずに登校するという生徒の割合が10%を超えており、この数字を少なくするためにも家庭への啓発活動を継続していかなくてはならないと考えている。新体力テストは女子、特に3年生で約半数がA・B段階に入っている。	図書ボランティアの尽力により図書室の整備が進み、利用者が増加してきている。紙芝居をしてくれるなど活性化が進んでいる。今後、継続してボランティアの方に来校いただけるかが課題である。体育大会や文化祭などに多くの地域の方々が足を運んでくれている。
改善方法 【A】 (次年度に向けて)	「主体的・対話的で深い学び」のある授業をめざして、学び合いの授業づくりに取組んでいく。授業の中での振り返りや補習についての取り組みを強め、基礎基本の定着に努める。朝の読書活動や朝学の充実を図っていく。	特別の教科道徳が完全実施となる中、授業時間の確保とともに、しっかりとした指導計画に基づいて授業を進めるとともに、適切な評価を行えるように研修を深める。全ての学期の中でアンケートを実施し、教育相談を通じて生徒の心の悩みを共有できるように努める。	新体力テストに向けての取組は継続して行っていくとともに、スポーツに親しむ気持ちを養う。部活動の振興を通じて生徒の基礎体力の向上に努めていく。保健だより等を通じ、「早寝早起き朝ごはん」を柱とする基本的生活習慣の確立に努める。	ホームページの更新や学年だより等の配布を充実させる。こうした取組を通じて、学校開放期間や学校行事等への地域の方々の参加を促す。図書ボランティアの参加の呼びかけを継続していく。英語指導などを通じて、小中が連携できるような機会をつくるように努める。

3 その他の課題

生徒にとってわかる授業、学びが成立する授業を粘り強く実践していくことが、学習規律を生み、生徒の成長を支える礎と考える。今まで以上に、授業について、創意工夫を続けていくことが大きな課題である。施設面では、生徒や保護者のアンケートにもありますが、トイレの改修等の計画的な改善・改修が必要です。